

連載

株式評論家 山本伸一の

兜町スタンダード

全無限の可能性秘める新規公開株に再注目



外部要因の落ち着きとともに全体相場が復調してきた。先週前半で決算発表も一服、株価の波乱要素となる決算発表を終えた銘柄が増えるとともに「買い易い」状況となり、夏期休暇中の市場参加者も多く、ボリウム不足から「閑散に売りなし」の様相を呈したことも相場を下支えたようだ。

日経平均株価は7月高値や大型連休明けの高値水準を奪回。このままの勢いが続けば、相場急落を演じた連休中の出来高真空地帯に突入するだけに、より上げ幅を拡大させていこうとなると、前回コラム「決算で明らかとなった評価余地が戻りの目安!」で紹介した「評価余地」がポイントとなってくる。

このまま企業の評価余地に着目するならば、上場間もない直近の新規公開株が有力な投資対象となつてこよう。上場から日が浅く、実態評価の織り込まれていない新規公開株は無限の可能性を秘める。来月には日本航空(9201)も再上場、新規公開株に対する話題性も高まつてくることが予想されるだけに、昨年後半からの新規上場銘柄を再点検しておきたいところだ。

そこで弊社では、成長株投資の収益機会を逃さないようにすべく、新規公開株(IPO)を対象とした「厳選5銘柄付き緊急市況レポート」を発売する。厳選銘柄やレポートに興味を持たれた方は、弊社に直接問い合わせしてほしい。